

市長コラム

～魅力ある地域づくり～

Vol.44



今年、五所川原市では幸い大きな災害や昨年のような猛暑の影響もなく、無事に実り多い収穫の秋を迎えることができ、たいへん嬉しく思っています。

★出来秋を迎えて

当市は、県内有数の米どころであります。東北農政局が発表した9月25日現在の2024年産米の作況指数によると、津軽は、平年の収穫量を「100」とした場合、「103」の「やや良」となっており、品質の良いおいしい新米がたくさん食べられるものと楽しみにしているところです。

私たちの食卓に欠かせない「お米」ですが、今年の夏は全国的に米の品薄が続き、いわゆる「令和の米騒動」とも報じられました。

これは、新米の本格的な出荷を控え、米の在庫が最も少ない時期にさまざまな要因が重なったことで、需要と供給のバランスが崩れたためと言われています。現在は2024年産の新米が市場に出回っており、品薄は解消しています。

一方で、新米の価格は昨年よりも大幅に上昇していますが、これは世界情勢の影響を受け、肥料や燃料、農機具などさまざまなものが高騰した、「生産コスト」の上昇に伴うものであり、苦しい状況が長らく続いていた生産者の皆さんにとっては、これまでの努力が報われたものと感じるとともに、地域経済に好影響がもたらされることを期待しています。

当市の基幹産業は第一次産業であり、地域が元気であるためには、好調が続く「りんご」をはじめ、農業に携わる方々が元気であることが不可欠です。

農業については、全国的に担い手・人手不足が課題となっていますが、1人でも多くの後継者や新規就農者を確保できるような施策を実施し、地域農業の持続的な発展につなげられるよう取り組んでまいります（3～5ページ掲載）。

★“十三湖超しじみフェス2024”が初開催！

9月8日、市浦地域の中の島ブリッジパークにおいて、第1回となる「十三湖超しじみフェス2024」が開催されました。

これは、`超しじみ`、の名前のとおり、全国有数の漁獲量を誇る十三湖の「大和しじみ」を思う存分に拾い、味わいながら、十三湖と市浦地域の魅力を満喫するイベントで、十三漁業協同組合を中心とした十三湖振興イベント実行委員会が企画し、行政がサポートすることで実現しました。

当日は、超しじみ拾いのほか、市浦牛をはじめとしたお宝が当たる抽選、カヌー&SUP体験やグルメ出店コーナーなどが催され、表紙の写真にもありますが、中の島ブリッジパークには、ご家族連れなど1,000人を超える方々が訪れ、これまでにないような賑わいを見せました。

晴れ渡る空の下、子どもたちが歓声をあげながら楽しむ姿は、地域資源を活用した、地域活性化に資する新たな取組の誕生を感じさせるものでした。

先月号のコラムでは、仁太坊祭りについて、金木地域でしかできない祭りとして、県外も含め多くの方が訪れたいと思えるように育てていただきたいと書きました。

市浦地域にも、「相内の虫送り」「脇元お山参詣」など、地域住民が中心となって守り続けている祭りがあり、地域への愛着の醸成や子どものアイデンティティの形成に重要な役割を果たしていますが、このほかにも、もっと多くの人を地域外から呼び込むことのできるイベントがあってもいいと思っています。

今回の超しじみフェスは、県外からも参加したいと思えるような可能性を秘めたイベントですので、今後、市浦地域の定番イベントとして、大きく進化していくことを心から期待しています。



多くの家族連れで賑わった「十三湖超しじみフェス2024」

